

項目	確認事項	届出内容
基本情報	大学等名1(代表大学等)	国際教養大学
	大学等名1(代表大学等)※カナ	コクサイキョウヨウダイガク
	大学等名1(代表大学等)※学校コード	F105210101077
	大学等名1(代表大学等)学校本部所在地	秋田県
	大学等名1(代表大学等)学校種別	公立大学
	科目名	デザイン思考実践(秋田県内課題解決型学修)
	学部・研究科等名	国際教養学部
	担当教職員名・役職	豊田 哲也 教授
	受講者数実績年度	令和4年度
	受講者数※キャリア形成支援活動参加者数	7
	受入企業等数	6
	受入企業等名	(株)JTB秋田支店、秋田テレビ(株)、秋田ノーザンハピネッツ(株)、詩の国あきた(株)、(株)空、(株)安藤醸造
	産学協議会の整理上の類型	1.令和4年度実績につき分類未適用
	キャリア形成支援活動の分類	1.長期(概ね1か月以上)のキャリア形成支援活動 11.地元企業・経済団体や地方公共団体等との協働による地域密着型のキャリア形成支援活動
上記以外のキャリア形成支援活動の分類(記述欄)		
要素①	1-1.当該キャリア形成支援活動は、就業体験を伴うものになっているか	1.はい
	1-2.該当する就業体験	1.企業等における業務への従事 2.企業等における課題の解決(例:ワークショップ、PBL型プログラム、課題解決ワーク、課題事例研究等)
	1-2.で「3.その他」の就業体験の内容	
	1-3.上記回答内容に関する詳細	学生は、約3カ月の就業体験を行っている。参加募集時には、説明会を実施し、企業が解決したいテーマと学生が経験する業務や身に付けられるスキルなどの説明を行い、興味を持った学生が応募する形式でマッチングを行っている。
要素②	2-1.当該キャリア形成支援活動を正規の教育課程の中に位置付け、シラバス等において、当該取組の実施目的や期待する教育的効果を明確にしているなど、体系的なプログラムとして単位認定が行われているか	1.はい
	2-2.該当するキャリア形成支援活動の内容	1.当該キャリア形成支援活動は、教養教育科目として実施している 2.当該キャリア形成支援活動は、キャリア教育科目として実施している 6.当該キャリア形成支援活動は、選択科目として実施している
	2-2.「9.その他」で実施しているキャリア形成支援活動の内容	
	2-3.当該キャリア形成支援活動を実施する年次	大学 学部1年 大学 学部2年 大学 学部3年 大学 学部4年
	2-4.当該キャリア形成支援活動で付与される単位数	大学 その他
	2-5.上記回答内容に関する詳細	9単位

要素③	3-1.インターンシップ等の就業体験の実施前の学生・企業双方との目標設定や目的のすり合わせや、実施後の振り返り等を行うなどの適切な学修の時間が設けられていますか。また、キャリア形成支援活動の教育的効果が発揮されるよう就業体験実施期間中に適切なモニタリングを実施していますか。	1.はい
	3-2-1.該当する事前学習の内容	1.学生に対して、社会人としてのマナーや守秘義務の遵守、パソコンの使用法等を身に付ける授業等を行っている 2.学生が受入企業の事業内容等に関する事前の調査・研究を行っている 3.学生に対して、インターンシップ等の就業体験における成果目標の確認や行動計画等の策定を行っている 4.学生に対して、正規の教育課程としてのキャリア形成支援活動の実施目的や期待する教育的効果の理解を促している 5.その他
	3-2-1.「5.その他」で実施している事前学習の内容	課題解決のためのデザイン思考ワークショップに参加している。
	3-2-2.該当する事後学習の内容	1.日報やレポート等を用いて、現場での体験の振り返りを行っている 2.報告会等により、インターンシップ等の就業体験の成果について、受入企業や担当社員へのフィードバックを行っている
	3-2-2.「4.その他」で実施している事後学習の内容	
	3-2-3.該当するモニタリング	2.インターンシップ等の就業体験実施期間中に、学生が定期的に大学等において教職員と面談を実施している
	3-2-3.「3.その他」で実施しているモニタリングの内容	
	3-3-1.事前学習の内容に関する詳細	本プログラムは、産学連携課題解決プログラム「AIUデザインLAB」の応用編として位置づけられており、基礎編(事前学習)として、課題解決に有効なデザイン思考を身に着けるための「デザイン思考ワークショップ」を行っている。
	3-3-2.事後学習の内容に関する詳細	企業のメンターとともに、最終成果報告会を行っている。
	3-3-3.モニタリングの内容に関する詳細	定期的なレポートの提出およびコーディネータによる伴走支援を行っている。
要素④	4-1.キャリア形成支援活動の教育的効果を定量的・定性的に把握できる手法・仕組みを取り入れていますか。	1.はい
	4-2.該当する教育的効果を測定する仕組み	1.アンケートやレポートの作成をキャリア形成支援活動の実施前後で実施し、学生の意識や行動の変容について確認を行っている
	4-2.「4.その他」で実施している教育的効果を測定する仕組み	
	4-3.上記回答内容に関する詳細	学生の評価については、以下のように評価基準を定め、モニタリングによって、学生の成長を促している。 1) 活動計画のプレゼンテーションおよび質疑応答 (10%)、2) 中間発表および質疑応答 (20%)、3) 週の活動報告10回 (20%)、4) 最終レポート (20%)、5) 最終プレゼンテーションおよび質疑応答 (30%) また、本学はCollegiate Learning Assessment (CLA+)を学生の成長メトリックとして採用しており、IR担当部署が学生の成長を外部テストの結果や成績等により多角的に評価しているが、評価の時間軸(独立変数)に本科目の履修前後も含まれており、評価結果を大学経営が確認できる体制が整っている。

要素⑤	5-1.一定期間のまとまりのある連続した5日間以上のキャリア形成支援活動の実施期間を確保していますか。	1.はい
	5-2.該当する実施期間	1.連続した5日間以上の実施期間を確保している
	うち、就業体験の実施期間(5-2.で「1.連続した5日間以上」を選択した場合)	約3か月の期間で最低225時間(週32-40時間8週以上)の活動時間の確保を要件としている。
	うち、就業体験の実施期間(5-2.で「2.事前・事後学習を合わせて5日間以上」を選択した場合)	
	うち、就業体験の実施期間(5-2.で「3.複数の企業等を合わせて5日間以上」を選択した場合)	
	5-2.「4.その他」の実施期間の内容	
5-3.上記回答内容に関する詳細	企業には、単位付与を伴い、一定の活動時間を確保する必要があることを説明した上で、同意いただける企業のみ本プログラムに参加できることになっている。コーディネータが活動時間のモニタリングも行っている。大学から離れた地域での活動は、基本的に企業に住居を提供してもらい、住込みでプログラムに参加するため、十分な活動時間を確保できる。大学キャンパス内の住居から通勤する場合においても、公共交通機関での通勤可能な就業時間の調整を行っている。	
要素⑥	6-1.大学等と企業の双方が関与し合い、学生に対する教育的効果の最大化に努めているなど、大学等と企業が協働してプログラムを設計していますか。	1.はい
	6-2.該当する大学等と企業の協働取組の内容	1.企業や産業界にとっての意義やメリット、必要な成果等を考慮し、企業と協働してプログラムを設計している 2.大学等が行う事前・事後学習等に企業等も参画し、協働して実施している 3.企業担当者が学生に対して適切に関与し、目標達成に導くなど、大学として必要な支援を行っている
	6-2.「7.その他」で実施している大学等と企業の協働取組の内容	
	6-3.上記回答内容に関する詳細	学生が取り組む課題を企業と大学が事前に設定し、学生の活動を伴走支援するメンタリング体制を整えている。
	7.上記①～⑥で回答した各要素の内容について、詳細が記載されているシラバスなどの資料が閲覧できる大学等のウェブサイトのURL	https://csw.aiu.ac.jp/campusweb/ex/en/refer/2022.107005.CCS250-1_W.htm
問い合わせ先	大学等名	国際教養大学
	担当部署名	応用国際教養教育推進課 地域連携チーム
	担当者役職名	チームリーダー
	担当者氏名	山野井 恵子
	電話番号	018-886-5835
	メールアドレス	aiu.collaboration@gl.aiu.ac.jp